

◆【海員随想】行ってみたいところと住んでみたいところ① 海員OB 及川帆彦

長年外航航路をやっていたので「外国はどこがよかったですか」と聞かれることがある。いうまでもないことだが、船員は船に乗って行きたいところへ行けるわけではない。行きたくないところにも行かなければならないし、行きたいところへ行っても、仕事が忙しかったり、停泊が短かったりで、上陸できない場合もある。それに上陸しても行けるところは限られてくる。港町とその周辺である。入渠とか積荷待ちとか、よほど入港日数が長くない限り、内陸の方にまで足を延ばすことはできない。

「外国へ行った」といっても、玄関先をちょっとのぞいてきたというのが正直なところである。

それでも同じ港に何回か入港すれば、その港や国のある程度の事情通にはなれる。また観光客など行くこともないような、港や島などへ行くことも少なくないので、その国の知られていない面を見たり、知ったりといったことも結構ある。私の場合、入港した国の数は40数カ国を数える。

以上のような事情を踏まえた上での私見ということになるが、また行ってみたいのはヨーロッパである。何といても近代文明の発祥の地であるから、見るべきもの、見るべきところが多い。古い町や城、教会、庭園、彫像や美術館、博物館も多い。自然の風景も美しく、建物なども潇洒で、都会もきれいだ。交通機関も発達し、整備されている。文明国が集まっているので、それぞれの国を比較できるという興味もある。

私としては、港町の方はひと通り行っているのだから、内陸の方へ行ってみたい。例えば、ドイツ南部のいわゆるロマンチック街道のハイデルベルクやローテンプルクあたり。楽都といわれるオーストリアのウィーン。アルプスの峰々を望むスイスのレマン湖畔のローザンヌやジュネーブ。それにイタリアのミラノやトリノなどである。海外旅行のおすすめの第一は、ヨーロッパということになる。

しかし、住んでみたいところとなると話は違ってくる。

オーストラリアの東にあるニューカレドニア島に、ニッケル鉱を積みに行ったのは、もう40年も前のことになるが、この島には非常にいい印象を持った。島といっても、日本の四国よりやや小さいくらいのおおきさがあるのだが、島全体が美しい緑に覆われていて自然が手つかずに残っているという感じであった。

最大の都市であり、港でもあるヌーメアは美しい街で、フランス領ということもあって商店街にはしゃれた店が並んでいた。そのヌーメアの郊外の緑の中に、カラフルな住宅が点在している風景は、南仏を連想させるものであった。

ニッケル鉱を積むところは島の南の入り江の奥であった。栈橋から赤土の様なニッケル鉱を積んだ船がやってきて、本船のデリックを使用しての荷役である。その栈橋の辺りに、いくつかの建物があるだけで、後は人家も見当たらない樹林が続き、ちょうど湖の中に錨泊している感じであった。十数人の港湾作業員は、ヌーメアから乗り込んできた。食料と寝具持参で、船尾甲板にオーニングを張って、そこで寝泊まりする。生きた鶏を30羽ほど持ってきて、船で料理するといった具合で、なかなかいいものを食べていた。

「海員だより」